

合同セミナー報告 ～防災とまち（ひと）づくり～

第96回技術交流研究会と北海道技術士センター防災研究会の合同セミナーが、平成16年3月4日（木）にホテル札幌ガーデンパレスで開催されました。

3月は各研究会が目白押しで、出席する方も時間、会費とも大変なのではないかということで、防災研究会と相談して『合同セミナー』という形で開催いたしました。その結果、当日は134名の出席者があり、盛況のうちにセミナーを終了しました。

今後もこのような合同セミナーも計画していきたくと思っています。

以下に合同セミナーの要旨を掲載します。

■報告：「遠隔地学習：eラーニングのすすめ」

技術交流研究会 岡田 昌樹 氏

コンピュータとインターネットさえあれば、どこでも学習できるシステム、それがeラーニングである。北海道のように距離的に地域差のある人材育成には、必要不可欠な手法と言える。

eラーニングは、1996年頃にアメリカで商用化が始まり、その後、アメリカ経済のIT分野を中核とした景気拡大策に乗り、IT技術者の養成など企業内教育に活用され、爆発的に普及しているものである。

日本では2000年後半から注目され始め、現在、大学の社会人教育や企業の社員研修に導入され始めてきた。eラーニングが普及している理由は、コストを含めた効率性であり具体的には次のとおりである。

- ① 好みの教育内容を場所や時間を問わず、個人の都合やキャリアプランに合わせて学べる。
- ② 集合教育と違い、個人の能力や学習スピードに沿ったレベルで学べる。
- ③ 動画の導入により、暗黙知の修得が可能となる。

- ④ 一方的な配信だけでなく、双方向の情報交換や共有ができる。
- ⑤ 進捗チェックや成績チェック、履歴など学習記録の管理ができる。

現在、通信速度に問題があるものの、eラーニングはブームの傾向にあり、各ベンダーから新システムが次々と押し寄せられ始めている。しかし、重要なのは、使う側が「使いやすい道具」の範囲で使うことである。北海道の技術士の場合は、次の意味で効果的に使えると思っている。

- ① 北海道という広い大地の地域差を埋める学習
→ オンデマンドは現在可能
- ② 暗黙知・形式知などをデータベース化とするナレッジ・マネジメント → 現在蓄積中
- ③ 集合研修・研究をより効果効率的な「場と時間」にするための予復習教材 → 今後の課題
- ④ 技術士間の交流を活性化するポータルサイト
→ 今後の課題

今後、システムの標準化やより使いやすいインフラが整えられてくるであろうが、課題はインセンティブと良質なコンテンツにある。現CPDのようなネガティブインセンティブだけではなく、熱意とバイタリティを持った技術士が北海道に溢れかえるほどの「しくみ作り」に役立たせたい。また、「技術士列伝」のように後世に残しておくべき高度な技術や技能、ノウハウなども蓄積していきたい。

■基調講演：「地球シミュレータの概要と研究成果」

地球シミュレータセンター

センター長特別補佐 平野 哲 氏

平成9年度から400億円をかけて開発された地球シミュレータ（建物は別途70億円）は平成14年3月から予定通り運用を開始した。地球シミュレータ

は稼動直後の世界標準のベンチマークテストで、計算性能が2位を5倍差で引き離し世界トップとなり、この技術革新が激しいスーパーコンピュータの分野で、依然として今日までトップの座を維持してきている。

この性能を生み出す、ハードウェア技術、特にシステムのアーキテクチャ、半導体、ソフトウェア技術の概要と地球シミュレータセンターの運営方法、最近の利用状況について説明する。既に、地球シミュレータは、大気・海洋分野、固体地球分野、計算機科学分野、先進・創造分野で様々な研究に供されているが、世界最先端の研究の紹介とその成果についてのデモ、今後の課題について触れる。

■基調講演：「危機管理と組織運営」

ニセコ町長 逢坂 誠二 氏

地震、火事、風水害、雪崩、遭難、事件事故はもとより、SARS、鳥インフルエンザ、BSEなど、自治体は常に平常時とは違う非常事態に巻き込まれる可能性を孕んでいる。しかし、これらへの備えを常に完璧に準備しておくことは、容易なことではない。しかも、消防や警察、あるいは自衛隊のような組織とは違い、いわゆる事務屋を中心とする官僚組織は必ずしも指揮命令に従順ではない。しかも単純な指揮命令だけでは解決のつかない課題が多いのも実態だ。

こうした自治体の内部の、危機管理と組織運営について、ニセコ町長としての実体験を踏まえつつ、話してみたい。

■技術交流研究会からのお知らせ

平成16年度の技術交流研究会は、第97回(6月)、98回(12月)、99回(3月)の3回を予定しています。毎年9月に開催している研究会は、技術士全国大会開催のためお休みさせていただきます。

会員以外の方も参加できます。多数、ご出席下さい。また、入会希望の方は、北海道支部事務局までご連絡下さい。

平成16年度 活動予定表

開催日	活 動 内 容
平成16年 6月3日 木曜日	■講 演 会 テーマ：「肝補助装置の歴史」 講 師：北楡病院 川村 明夫 教授
平成16年 12月2日 木曜日	■講 演 会 テーマ：「工学系・生物系大学の研究現場」 講師：工学系及び生物系大学の助教授に研究現場を紹介いただく。
平成17年 3月3日 木曜日	■講 演 会 テーマ：「文化系大学の研究現場」 講師：文化系大学の助教授に研究現場を紹介いただく
開催場所：KKRホテル札幌 開催時間：14：00～17：30 参加費：1,000円（技術士会会員）、2,000円（非会員） 定 員：50名	

(文責：技術交流研究会 吉野 大仁)

■防災研究会からのお知らせ

防災研究会では、技術交流研究会同様、平成16年度には年3回の防災研究セミナーⅠ(7月)、Ⅱ(11月)、Ⅲ(2月)の開催を予定しております。CPD対応の一環でもあり、多くの技術者に御参加して頂ければと考えています。防災研究会では、第Ⅴ期(平成15～16年)研究テーマを「都市型防災」とし、市民を対象とした防災提言書を発刊すべく、情報系・地盤系・交通系・都市系・水工系の5つの専門部会を中心とした積極的な研究活動を現在展開しています。

今後も防災研究会では、北海道の災害を最小限に食い止める防災体制や防災型国土のあり方などの研究成果の提言を目的に、防災に関する認識向上の視点から幅広く研究活動を進めていきたいと考えております。今後とも研究会への一層ご理解とご協力をお願いいたします。

平成16年度 防災研究会活動予定

平成16年度 総会	平成16年5月20日
防災研究セミナー(Ⅰ)	平成16年7月
防災研究セミナー(Ⅱ)	平成16年11月
防災研究セミナー(Ⅲ)	平成17年2月
「都市型防災」提言書発刊	平成17年3月

(文責：防災研究会 富澤 幸一)